



今回は開催された地域防災セミナーのご報告です。

## 「避難生活で命・健康・安全を守れますか？」

～高齢者、障害者、子ども、女性の視点から～

2020年1月26日(日) 午前中 区役所プライトホール

講師：減災と男女共同参画 研修推進センター共同代表 **浅野幸子** 氏

### プロフィール

阪神・淡路大震災に際して学生ボランティアから国際協力NGOのスタッフとなり、在宅避難者・仮設住宅・全焼地域の復興支援などに4年間従事したことから防災に取り組む。早稲田大学招聘研究員。全国で防災講演・講座・研修を行う。「避難所運営ガイドライン」(内閣府・2016)はじめ、国・自治体の防災政策にも関わる。

自身の被災地支援の経験をもとに、日ごろからのチェックポイントや避難所で注意すべきことなど、高齢者、障害者、子ども、女性の視点からご講演をいただいた。

### 《講演の要点》

## 被害の大小は社会的な状況による

ライフスタイルと経済格差が死者や被害者数に影響する。地域での在宅率の高い女性、高齢者、中学生以下がいかに関わり合っていくかによって変わる。阪神大震災では100ヶ所以上の火災を市民が消し止めた。女性消防団の活躍もよい。消火器は重いので投げつけ形のペットボトル消火剤や最新小型機器を使うと女性や子供でも火災を消し止める可能性が高まる。

## 在宅も避難のひとつの手段

避難所は地域住民のほんの一部しか収容できない。家が残っている人は家に戻ろう。支援物資配布や生活情報の提供を在宅の人にも行き渡る仕組みを作ろう。神戸・真野地区は在宅避難の人に弁当を配った。自宅で生活しながら復旧・再建する。認知症、障害者などの災害関連死者を出さない知恵と工夫をすることが肝心。

## 在宅避難のための自助3原則

- ①安全な室内への改善を徹底  
—— けがをしないような工夫
- ②備蓄について考え、備える  
—— せめて一週間分、できれば10日分
- ③地域の災害リスクと防災資源を知る  
—— 被害のタイプ、避難経路



家族防災会議のイメージ

## 皆が備蓄を見直した地域は救われる

3・11では毛布すら届かなかった。物流混乱、食品工場も被災した。支援物資はたくさんは届かないし安定的な供給も期待できない。支援の地域差は起こる。子ども・障害者・高齢者多い家は特に備えておきたい。家庭の備蓄が地域全体をも守る。

## 最優先で「水洗トイレ使用禁止」の徹底

発災直後から上下水道が損傷する公算が強い。トイレを詰まらせない対策が肝心。避難所も家庭でも早い段階から簡易トイレを使うよう心がけよう。

## 避難所の環境衛生と感染症予防

避難所生活ではトイレの衛生管理が最も重要。寝床の改善も必要。床に直接寝ると関節が固まり寝たきりになる。ノロウイルス感染が起きた場合は衛生環境に強い病院関係者や介護現場従事者、保育園の先生の助けを借りよう。

特に、女性はお風呂に入れないと下着が汚れ細菌感染しやすくなる。膀胱炎や膀胱炎になりやすい。妊産婦は流産、死産の可能性が高まる。



避難所のイメージ

## 男性リーダー中心からの脱却

避難所運営の役割はもう一度見直した方がよい。リード役に女性がしっかり加わることが絶対必要。女性が朝から晩まで炊き出しをしているようではないけない。炊き出しは料理人がやるべきである。

## 皆で犯罪を許すな!

災害時は女性・子どもへの性犯罪リスクが高まる。女性・子どもは男性に被害を訴え出ない。女性も防犯リーダーに。防犯ブザーの配付、防犯カメラの設置、避難所と地域の防犯パトロールなどを実施したい。犯罪を許さない。野放しにしない。

## 防災・減災のイメージを変え「災害に強いまち」をめざせ!

日本は従来から自然科学系の防災の専門家が多い。ミクロ・マクロ調査をしてデータをもとに社会的、合理的、戦略的な防災・減災に取り組むべきだ。生命を守るスキルが必要。復興へのエネルギーも蓄えながらの避難生活ができるような戦略を持ちたい。我慢、根性、勢い論はやめよう。

### <セミナー出席者の感想>

- ・防災リーダーは様々な人が担うこと、小リーダーをたくさん作って権限委譲することが大切だと思った。(50代女性)
- ・女性の視点からの防災は高齢者・障害者・子ども・女性などすべての対応に通ずる。とても勉強になった。一部の人が力を発揮するのではなくすべての人がリーダーになりうると改めて認識した。(50代女性)
- ・発災時とその後の避難所体験者の話を組み入れた防災訓練の必要性を感じる。避難所運営を実体験した方の講演は大変有意義であった。(70代男性)
- ・とてもわかりやすくなった。女性の視点大切。また“みんなが自分の力を出し合っ”が重要と感じた。若い人にもこういう話をもっと聞いてほしい。(50代女性)

一般的な新型コロナウイルスに関するご相談は

世田谷区新型コロナウイルス相談窓口

電話 03-5432-2111 FAX 03-5432-3022(平日8:30~17:15)

インターネット検索

世田谷区 新型コロナ

若林地区身近なまちづくり推進協議会は若林まちづくりセンター管内の住民委員で構成された協議会です。安全安心部会は主に防災・防犯・交通安全など地域の安全安心まちづくりを推進しています。この通信は三軒茶屋・若林地域に掲示・回覧・配布しています。世田谷区のホームページからも見ることができます。

メンバー 小泉一哉 米屋治幸 阪本富貴枝 高木史雄 月村雅一 廣瀬稔教 藤原道恵 安原正紀 山崎幸雄(アイエオ順)